

奈弓連だより

通巻 222号

令和2年8月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 松澤和実 山本悦子

連絡先: henshu@narakyudo.jp

令和2年度奈良県高等学校弓道選手権代替大会 男子:田中 蒼翔選手(橿原)、女子:森田 菜月選手(橿原)が1位

令和2年度奈良県高等学校弓道選手権代替大会が8月5日・6日に奈良県弓道連盟の主催で橿原公苑弓道場において開催されました。競技は近的競技の個人戦で行われました。個人戦は各自予選8射を行い、5中以上の者の決勝射詰めで順位を決定。今大会は、新型コロナウイルス感染対策を行う中での今年度初めての公式戦となりました。検温・体調チェックなど選手・顧問や全ての関係者がそれぞれ十分な対策を行い開催されました。観戦も中時の発声を拍手に変えるなど普段とは雰囲気の違いの大会となりました。入賞者は以下の通りです。

男子個人

1位	橿原	田中 蒼翔	2年
2位	郡山	稲岡 勇仁	3年
3位	平城	伊東 拓真	2年
4位	奈良北	新山 章太郎	3年
5位	高田商業	吉川 凜耶	3年
6位	奈良北	雲雀 翔太	2年
7位	奈良北	竹中 勇太	3年
8位	榛生昇陽	岡本 優雅	2年
9位	奈良高専	渡邊 幹	3年
10位	桜井	金原 那智	2年



男子入賞者

新型コロナウイルスの感染者数が増加しています。感染防止対策をもう一度確認し、実行していきましょう。

◆自分の周りには、無症状でも感染している人がたくさんいると思って行動してください。まあいいだろうという甘い考え方が、人に感染させる、人から感染するという事に繋がります。3密を避けて慎重に行動しましょう。

中止が決定した行事(7/15以降 8/15現在)

奈良県内

全日・国体・ねんりんピック・都道府県対抗壮行会 (8/30)

女子個人

1位	橿原	森田 菜月	2年
2位	桜井	金澤 ひろ乃	2年
3位	郡山	小谷 花野子	2年
4位	高田商業	柏木 都	2年
5位	桜井	山本 萌々子	3年
6位	西和清陵	二階堂 ウララ	3年
7位	橿原	植田 楓望	2年
8位	榛生昇陽	吉田 萌衣	2年
9位	桜井	追分 みづき	3年
10位	奈良北	平田 陽香	3年



女子入賞者

(高体連 澤 隆明)

工房に舞い込んでくる髯の修理や相談事をもとに思いつくままに書いてみます。

○汗対策

夏場の修理依頼で汗の為に濡れ雑巾のようになってくる髯がやって来ることがあります。下髯を複数枚用意して小まめに交換するなどの対策も大切ですが、手首に吸湿性のサポーター（リストバンド）を付けるのが有効です。100円ショップで簡単に手に入ります。

下髯でカバーできない髯の裾（ここが最も汗が付き易い）から1cm程度はみ出す位置に付けます。審査等公式の場では問題もあるかと思われまので、上記はあくまで普段の練習時のお話です。使わない時、髯はこまめに外し、練習後帰宅すれば髯袋から取り出し、風通しの良い日陰に置いておきます。

弓の素人が見ると髯とは実に不潔で汚いものに映るようです。かつて、おばあさんが洗濯してしまったと言って工房に担ぎ込まれた髯があります。皮が水を嫌う訳ではないのですが、髯を丸ごと水に放り込んだりすると、接着剤が剥がれてしまいます。この孫の髯



の帽子は皮が中の角（つの）から浮いてしまい、蝮の頭の様になっていました。

○ギリ粉の黒ずみ

指に付いたギリ粉が熱で溶け出して付着すると黒くなります。ひどくなると夏などはべたついて離れに支障が出ることもあります。厚い層になってヒビ割れてくると爪の先などで引っ掻くとぼろぼろ取れてき

ます。サンドペーパーなどで削る方もおられますが皮を痛めるのでお勧めできません。アルコールなどで拭き取るなどの方法もあるようですが私自身は試したことがありません。道具なので使えば汚れるのは仕方ありませんが、ギリ粉を多めに使う人は、練習後添え指や帽子付近に着いた余分なギリ粉を払い落とす習慣をつけるのが良いと思います。

○溝の変形

修理依頼で最も多いのが溝の変形です。溝が深くなったりえぐれてしまったり、時には腹皮が破れて中の弦枕が覗いてしまったりしています。根本的な修理として鮫皮を貼る方法がありますが、溝の位置が変わる（外に出て拇指付け根方向に移動）為に私はお勧めしません。鮫皮と同じ効果を生むものとして、ホームセンターなどで手に入るエポキシ系の接着剤で溝付近をコーティングする方法です。30分や60分硬化など、早く固まる製品がありますが、粘性があるために腹皮に染み込み難く、また硬化するまでに流れ出しますので熟練が必要です。誰にでもできて最も有効な予防法は、中仕掛けを太くすることです。特に、女性の用いる細い矢の筈の溝は細くなっている関係で、弦の中仕掛けも細くなる傾向があります。矢を番える位置よりも3cm程度下の辺り（髯の溝が当たる位置）を太くします。弦が溝に食い込み難くなり、離れも良くなります。ただし、弦が重くなって弦音に影響があるそうで、高段者はこのようにはしないようです。

熱中症に十分に注意してください。

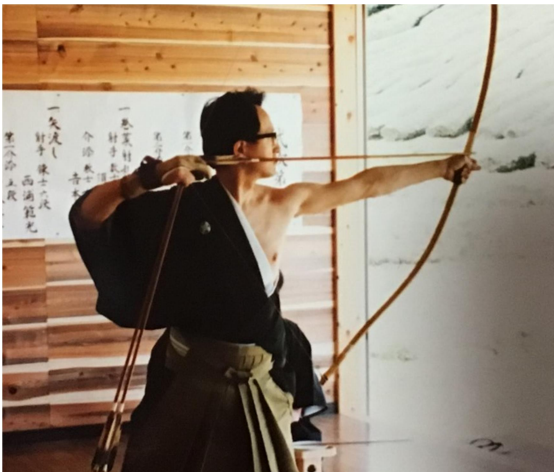
- ◆暑さを避けましょう。換気をしつつエアコンの温度設定をこまめに調整しましょう。
- ◆暑い日や暑い時間帯に無理をしないようにしましょう。
- ◆距離を十分にとって適宜マスクをはずしましょう。
- ◆こまめに水分補給しましょう。塩分も忘れずに。
- ◆日頃から健康管理しましょう。体調が悪い時は、無理せずに自宅で静養しましょう。
- ◆暑さに備えた体づくりをしましょう。

奈良県の支部、団体紹介

布目弓道場開設当時のことなど

布目支部 井戸上 博一

布目弓道クラブの誕生は、30年前余り前（昭和59年）、吉本清信先生が山添村桐山区にある東山診療所に赴任された頃に遡ります。9年後、桐山区在住の故中窪英明氏が診療所前の土地に弓道場英明館を建設して提供してくださいました。平成5年、道場開設のセレモニー（塚固め式）に出席されていた久保村長に「塚」（あづち）の字の読み方を質問されたことや、吉本先生が的の掛かっていない塚に三本の白羽の矢を射込まれる様が珍しかったことが思い返されます。



3本の矢を射るので 取矢が2本です。

的はなく、3本の白羽の矢を低い、高い、低いと射る。

当時、私は高校の弓道部の新米顧問になった頃であり、吉本清巳さんや藤岡順さんは高校の弓道部員でした。地元出身ということで、先生には当初よりお誘いいただきました。弓道部員を連れて道場に押しかけ大変お世話になりましたが、それ以外では布目大会やバーベキュー等のイベントの折りにだけ顔を出す、弓道の練習には全く不熱心な弟子でした。素晴らしい練習環境に恵まれながら悪戯に時だけを過ごしてしまいました。

弓道場は、太い松材の梁が剥き出しで、壁に杉板を巡らすログハウス風の三人立（大会では四人立も可）です。矢道には芝桜が植えられ、5月には赤、白、ピンクの花が咲き誇りますが、夏の草取りには苦労させられます。布目大会前には、布目をホーム道場にしているシャープ弓道部（通常土曜日活動）の方々を中心に整備を行います。また、道場に程近い多目的広場に

は常設の遠的場があり、的は一つですが三人立の射場が完備しています。布目支部は会員数十数名の少人数のために、定例の練習日には他支部（時には他県）からの参加者も含め10名程度で活動しています。

○例年6月に開催されている布目弓道大会について

平成6年第1回大会が開催されて以来、1度だけ開催できない年があったものの、昨年の第25回大会まで、県内はもちろん県外からも多数参加いただき親しまれてまいりました。採点制の大会であり、的中中心の一般の大会に対して特別な存在意義がありました。大会終了後の公民館での懇親会では弓道談義に花の咲く楽しい時を過ごしました。昨年がけじめの大会となり、多くの弓友が惜しまれながら、昨年をもって中断することになりました。



子どもの立ちは大的を置いて

○定例の練習日について

① 弓道教室 I（火曜日 19:00～）

主に初心者を対象にした教室で、これまで布目で初めて弓を引いた小学生（4年生から6年生）や一般の方々は160名以上の人数に上ります。毎週午後7時から1時間程度の練習ですが、コロナ禍の昨今小学生は午後6時～7時、一般は7時以後と密にならないように配慮しています。初期の頃の子供達は既に成人し、その子が入門して来ることもあります。

② 練習会（金曜日 17:00～）

一般向けの練習会です。常連の県外からの参加者もあります。

○108中射会（大晦日）

道場開設当時の定例の行事で、参加者が立順に弓を引く中で見事108中目の的中者が優勝という趣向。遅刻して100中越え辺りから参加して優勝をさらうといったハプニングも多く楽しい年末行事です。大晦日に家に居ると碌なことが無いので、私はこの行事に関してだけは参加率が良く、2度優勝しました。9時頃から引き始め、年越し蕎麦とおでんの昼食にありつけるのは2時を過ぎるのが通例です。

歳時記

「九月」 萩の花見

秋の七草は日本古来の野の花をめぐる花見の行事です。ことに萩は、奈良、平安の時代に萩の宴の催しが行なわれていたほどで花見の中心でした。萩、尾花、葛の花、撫子(なでしこ)の花、女郎花(おみなえし)、藤袴、朝顔の花、あるいは桔梗(ききょう)と、どれをとりあげても日本の美しさを示しています。このほかに、水引き草やかるかやなども入れたい花です。秋の花に対し、中秋の名月とか後の月として、秋に月をめぐることも美しさの本質をみつめています。(中略) 中秋が九月十七日ごろ(陰暦八月十五日)になります。秋の澄んだ空に清く浮かぶ中秋の名月、秋の草花の黒い陰、すすきの穂は光に美しい影を添えます。後の月は陽暦十月十五日ごろ(陰暦九月十三夜)です。月見にはすすきを生け、団子、栗、柿、ぶどう、枝豆、いもなど季節の果物や野菜を供えて月を迎えました。九月十六日は放生会(ほうしょうえ)の日です。生き物を放す日で、ことに鶴岡八幡宮の放生会は古くから行なわれていました。魚、鳥、獣など平日食用に供され、狩猟の対象とされている物を、この日に供養して生物を放す法会です。鶴岡八幡宮では鎌倉時代には、狩猟において最も獲物を多く捕らえた者の中から、この日の流鏝馬の射手を選んだことなどが「吾妻鏡」に記されています。小笠原家では毎年この行事に奉仕し年間を通じた稽古を続けています。九月十六日午後一時、神事は開始されます。まず舞殿にて修祓の儀があり、後に乗馬して馬場に入って流鏝馬の神事が開始されます。百二十間(約218メートル)の昔ながらの馬場で、現在の改良された馬格の大きな優秀馬によって、昔そのままの儀式を行なうのですから、技もむずかしくなってきました。馬を馳せながら、三つの的を次々に射っていきます。最近までは農事と結び付けて、三つの的にそれぞれ稲の収穫を願いました。一の的は早稲、二の的は中、三の的は奥手の豊作を祈って、広く関東一円の農家にとっては信仰的な集まりでさえありました。国際的な観光行事の一つとして、国の内外を問わず、数多い日本の行事の中でも特に知られているものです。

「小笠原流マナー」著者小笠原清信グラフ社発行より
中埜大学藤原孝澄(中埜広樹)

(2008年9月号に掲載された記事より)

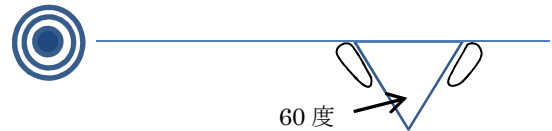
量る、測る、計る?



足踏みの角度を見直してみませんか?

まず、正しい足踏みの角度とは?

教本1巻P106に、「射位で脇正面に向かって立ち両足先を的の中心と一直線上に外八文字に踏み開く動作であり、その角度は約60度で、両足先の間隔はおよそ自己の矢束とする。」とあります。



「自己の矢束」については5月号で測りましたね。

「外八文字に約60度」は、なかなか測る機会がないかもしれません。道場に大きい三角定規のような道具があれば、今一度測ってみるのもよいでしょう。引き分けにしたがってかかってくる弓力を支えられるように安定して立てる角度にしっかりと立ちましょう。きちんと立っているか、よく先生に腰を前後横から押してもらい確かめていただいたものです。

ただし、現代弓道辞典では、「概ね60~70度、流派により足の角度の違うものもある」とあります。また、現代弓道講座では、「強い弓(20kg以上)の人は、広めに立つ、安定のよい角度を選ぶこと」という記述もあります。流派によっては、射癖の直し方として、足踏みの広さ狭さを変えていくこともあるようです。どの流派でも、足踏みを胴造りにつながる大変重要なことと位置付けているようです。

編 | 集 | 後 | 記

今年は長い梅雨があけたと思ったら、40℃近い猛暑。毎年この時期は近畿ブロックが行われていましたが、今年あったら選手も観客も役員も熱中症で倒れていたかもしれません。8月初旬に高校生たちの試合が久しぶりに行われました。3年生は最後の試合でしょうか。笑顔の写真です。良い思い出になってほしいです。さて、今月は弾のメンテナンスについて、弾師 象水さんに急遽お願いし、快く引き受けていただきました。ありがとうございました。審査、競技会が再開される日を願って、身体の準備、道具のお手入れに励みましょう。

(編集担当 松澤和実)